

神 経 科・精 神 科

1. スタッフ

科長（兼）池田 学

その他、教授 3 名、准教授 2 名、講師 4 名、助教 7 名、医員 6 名、臨床心理士 1 名、病棟事務補佐員 1 名、外来事務補佐員 1 名（特任および兼任を含む。）

2. 診療内容

一般外来の他、以下の特殊外来を設け、重点的に診療にあたっている。

(1) 神経心理外来（高次脳機能障害外来）

対象疾患は、認知症の原因となる様々な脳変性疾患、脳腫瘍などの脳外科疾患、頭部外傷その他の脳器質性疾患、PTSDなどの精神疾患である。これらの疾患に罹患した患者に対して、認知機能検査、神経画像検査、神経生理検査などを行ない原因診断、治療を行い、また特発性正常圧水頭症といった、治療可能な認知症については、その治療効果の評価を行う。また、認知症患者に対しては、環境の調整を含めた治療に力を入れ、そのための介護者教育、地域の医療機関・介護施設への連携支援、自宅訪問も行っている。

(2) 総合失調症専門外来

対象疾患は統合失調症であり、地域医療機関と連携し紹介を受け、認知機能検査、生理機能検査、脳神経画像検査を行う。結果を説明して、患者に統合失調症への理解を深めてもらい、主治医には今後の治療に役立ててもらう。当科では遺伝子解析による病態解明研究を行っている。

(3) 青年期外来

青年期に好発の精神疾患のうち、薬物療法のみでは改善が困難であり、精神療法・家族療法的な対応を必須とする症例を対象としている。

(4) 児童思春期外来

自閉スペクトラム症、AD/HD など発達障害、児童虐待、PTSD、解離性障害などトラウマ関連障害、摂食障害、そして、児童思春期における統合失調症、気分障害、不安障害、適応障害などの症例を対象疾患として扱っている。本人、養育者に児童思春期専門外来専用の問診票を行い、さらに必要に応じて、児童思春期の専門的な各種心理検査・評価尺度を行い、診療を行っている。また、学校や地域とのカンファレンスも必要時実施している。また、当外来は、子どものこころの発達研究センターの一部門としても機能している。

(5) 臨床心理検査

臨床心理検査とともに、気分障害、神経症、心因反応、児童・思春期精神疾患等を対象疾患に標準型精神分析療法を主治医の依頼の元、臨床心理士が行っている。また、統合失調症を対象疾患として通院集団精神療法を行っている。

3. 診療体制

(1) 外来診療スケジュール・検査スケジュール

外来の週間スケジュールを表 1 に示す。

(2) 病棟体制

病棟のスケジュールを表 2 に示す。当科の病床数は、閉鎖病棟 36 床及び開放病棟 16 床で計 52 床である。医員 8 名（うち大学院生 3 名）、助教以上の常勤スタッフ 12 名が、患者 1 名に対して、担当医 1 名（医員）と指導医 1 名（助教以上の常勤スタッフ）との原則 2 医師担当体制で診療にあたり、さらに初期研修医も上級医の指導のもと診療に参加している。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

平成 30 年度の外来初診患者数は 1,334 名（男性 568 名、女性 766 名）であった（表 3）。このうち本院入院患者の紹介受診は 343 名で、臓器移植関連の紹介は 141 名であった。一日当たりの平均初診患者数は 5.4 名であり、外来初診患者の平均年齢は 53.3 歳であった。年齢別では、70 歳代が 18.5% で最も多く、ついで 50 歳代（14.4%）であった。疾患別初診患者比率を表 3 に示す。疾患群分類では、神経認知障害群が 424 名（31.8%）と最も多く、次いで臨床的関与となる状態が 163 名（12.2%）、抑うつ障害群が 149 名（11.2%）、であった。平成 29 年度と比較すると、神経発達症群、睡眠一覚醒障害群、心的外傷およびストレス因関連症群などが増加した反面、抑うつ障害群、統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群、臨床的関与となる状態、不安症群などが減少していた。

(2) 入院診療実績

平均稼働率は 60.9%、在院日数は 37.4 日であった。入院患者の疾患別比率を表 4 に示す。最多は器質性認知障害で、次いで統合失調症・他の精神病性障害となっている。病棟では一般的な精神科治療の他に、認知症診断のための短期入院プログラム、クロザリル療法を中心とした統合失調症入院プログラム、無けいれん通電療法（mECT）、入院集団精神療法など特殊療法を行っている。

(3) 検査・治療件数

専門外来として、神経心理外来では年間延べ 361 名を、統合失調症専門外来では年間延べ 250 名を、児童思春期外来では年間延べ 778 名を、青年期外来では年間延べ約 300 名を診療している。臨床心理検査は年間延べ 444 名、標準型精神療法は年間延べ 241 名、通院集団通院精神療法は年間延べ 100 名、音楽療法は年間延べ 254 名、絵画療法は年間延べ 115 名を行った。

(4) 臨床治験

認知症の新薬（抗アミロイド β 抗体やアミロイド β 産生酵素阻害剤など）の治験も隨時実施している。

5. その他

(1) 諸学会の認定施設、各専門医の数

日本精神神経学会認定施設（専門医 10 名）、日本老年精神医学会認定施設（専門医 3 名）、日本認知症学会教育認定施設（専門医 5 名）である。また、厚生労働省の認定する精神保健指定医は 11 名勤務している。

表 1

外来診療スケジュール	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
一般（初診）	*		*		*		*		*	
一般（再診）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
青年期外来（初診）	*									
青年期外来（再診）		*				*				
神経心理（初診）			*		*	*	*			
神経心理（再診）		*	*	*	*	*	*	*	*	
統合失調症外来（初診）									*	
統合失調症外来（再診）									*	
児童思春期外来（初診、再診）									*	*
集団通院精神療法（再診）				*						
臨床心理検査（予約）		*				*		*		
神経心理検査（予約）		*				*			*	
統合失調症外来検査（予約）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

表 2

月	13：00～14：00	絵画療法（入院集団精神療法）（隔週）
	14：00～16：00	病棟カンファレンス
	16：00～18：00	病棟回診
火	10：00～11：00	音楽療法（入院集団精神療法）
金	13：30～14：30	リエゾン回診
	16：30～17：00	医局勉強会

表 3 初診患者内訳

DSM-V 分類	患者数
神経認知障害群	424
物質関連障害および嗜癖性障害群	22
統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害	94
双極性障害および関連障害群	51
抑うつ障害群	149
不安症群	72
強迫症および関連症群	9
心的外傷およびストレス因関連障害群	73
身体症状症および関連症群	79
解離症群	13
性関連症群	1
食行動障害および摂食障害群	24
睡眠一覚醒障害群	102
秩序破壊的・衝動制御・素行症群	0
神経発達症群	95
パーソナリティ障害群	11
医薬品誘発性運動症群および他の医薬品有害作用	7
てんかん	32
その他の身体疾患	17
臨床的関与	163
その他（相談等）	14
患者総数（複数障害のため各疾患の合計数とは異なる）	1334

表 4 東 2 階入院内訳

DSM-IV 分類	患者数
気分障害	64
不安障害	2
器質性認知障害	101
統合失調症・他の精神病性障害	67
身体表現性障害	2
解離性障害	3
睡眠障害	25
適応障害	5
てんかん	3
人格障害	1
知的障害	11
摂食障害	6
一般的の身体疾患による精神疾患	10
物質関連障害	2
その他	1
合計	303